

古きもの新しきものの結合

一昨年熱帯アフリカを襲った食糧危機は現在数カ国を除き、小康状態にあるが、その再発は予断できず人口増に見合った食糧増産が緊急の課題であることに変わりはない。

熱帯アフリカの湿潤～亜湿潤地帯では土地に余裕のある限り短期（1～2年）の作物栽培と長期（6年以上）の叢林休閑による地力回復期が交互に来る伝統的な移動耕作が小規模農家にとってなお優位を占めている。人口増や都市化の重圧によって土地、労力が逼迫すると休閑期間が短くなり、土地生産力は急減し伝統的システムはバランスを失って崩壊する。

熱帯では温帯先進国の近代技術がそのままの形で伝統的技術に代替できないことは多くのプロジェクトの失敗例にみるとおりである。ナイジェリアの国際熱帯農業研究所では伝統的技術の原理を排除しないでこれに近代技術をたくみに取り入れた Alley Cropping（生け垣間作）という作付法を開発した。

要点はギンネムなどマメ科の樹木で生け垣（巾2～4m）をつくり、その間に食糧作物（メイズ、ヤムイモなど）を栽培するもので一種のアグロフォールスリーでもある。空中Nを固定するギンネムの数回の刈込みで得られる小枝や生葉は作物の緑肥、マルチ材料、山羊や羊の緑飼料、薪にもなり、とくに休閑（乾季）中はギンネム茎葉の遮へいによる雑草抑制効果が大きい。耕起も不要だから傾斜地の土壌保全にも有効である。まさに input の少ない“適正技術”というべきであろう。

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会会長 杉 穎夫＞

目 次 （第20巻第10号）

古きもの新しきものの結合……………	1
＜財団法人 日本植物調節剤 研究協会会長 杉 穎夫＞	

最近の技術開発をめぐって……………	2
＜農林水産技術会議事務局長 畑中孝晴＞	

農政審答申と技術展望……………	2
生研機構の発足……………	4
バイオテク等先端技術の開発・利用……………	5

農業業界をとり巻く内外の情勢 昭和61年から62年へ……………	6
------------------------------------	---

＜農薬工業会会長 宗 展生＞	
昭和61年の概況……………	6
円高・原油安の影響……………	6
悪化する経営実態……………	7
急がれる国産原体の育成……………	7
農薬工業会の方針と目標……………	7
コメをめぐる内外の動き……………	8
昭和62年の展望……………	8

農薬データベースの開発と利用……………	9
＜農薬工業会 関根文三＞	

1. はじめに……………	9
2. 農薬データベースの開発概要……………	10
3. データー項目とその内容……………	11
4. 検索とコマンド……………	13
5. 出力・表示……………	14
6. サービスの開始……………	14

養液栽培の現状……………	15
＜野菜茶業試験施設生産部 安井秀夫＞	

1. たん液型水耕……………	15
2. NFT及びロックウール耕……………	16
3. 水耕栽培を成功させる条件……………	17
4. 養液栽培の役割……………	18

昭和61年度春夏作芝生関係除草剤・ 生育調節剤試験成績概要……………	19
---------------------------------------	----

＜財団法人 日本植物調節剤 研究協会 技術部＞	
昭和61年度桑園関係除草剤・生育調 節剤試験成績概要……………	25

＜財団法人 日本植物調節剤 研究協会 技術部＞	
----------------------------	--